

寄附講座

「ソーシャルヘルスマネジメント学講座」について

熱き心のぶつかり合い

社会医学講座 教授 中路重之

私たちの保健、予防、健康作りの分野は、悔しいのですが地味です。「保健、予防、健康作りは大切だよ」と言っても、それが分っていないでも盛り上がりがないのがこの分野です。それはきつと、「人は病気には興味があるが（健康のうちには）健康に対しては興味がない」という神様が決めた非情のルールがあるからでしょう。

したがって、行政でも経済状態が悪くなると、真先に切られる対象となりやすい分野です。関係部署が企画を持って行っても、「どのような経済効果があるのか」とか「そのエビデンス（科学的根拠）を示せ」とか財務担当から難癖をつけられるのがオチです。親が子供の成績向上を願って、「百点取ったら君の新しい部屋を作ってあげる」というのと「新しい部屋を作ったから頑張るって百点取りなさい」と励ますとの違いに似ているような気がします。

「健康作りは医療費抑制につながる」とあるいは「そのエビデンスを示しなさい」と言われると、大きなため息が出てしまいます。「そう簡単にエビデンスが出せるか」というのが正直な気持ちです。しかし、日本一長寿の長野県の六十五歳以上の人の一人当たり医療費が全国最低であるとい

う事実は、立派なエビデンスだと思えます。やっぱり、保健、予防、健康作りの分野は、経済効果もあるんだという自信にもなります。しかし、それ以上に、元氣なお年寄りが増え、国民が健康で明るく生きることのできる社会は素晴らしいものです。単に経済効果だけではありません。



寄附講座の看板の前に、左から梅田准教授、森研究員、中路教授、高橋講師

このようなことをつらつらと考えたところで、結局は、冒頭に申し上げた「保健、予防、健康作りの分野は地味」という事実（大きな壁）が存在します。ここを何とか打破したい、というのが私たち社会医学に身を置く人間の大きな大きな願いです。

そのような悩みに悶々としていたある日、ある知人が「雪印メグミルクの者です」という方を連れてきました。当方には結構多くの企業の方が来られます。しかし、地味な活動を見て「これはものにならないな」と見切りをつけられることが多く、また当方も「（利益

追求を全面に出している）この企業とは組めないな」と思ったりしてなかなか連携を得る機会はありませんでした。ところが雪印メグミルクの方はそうではありませんでした。実際に私たちのフィールド活動に何度も足を運んでくれました。結局会社側（担当者）に「何とかしたい」という気持ちが強かったんだと思えます。私たちもそれを強く感じました。

そのような背景で、今回の雪印メグミルク株式会社寄附講座「ソーシャルヘルスマネジメント学講座」が開設されました。両者の熱い気持ちがあっさりよつに組み合ったということ

です。つまり、私たちの「企業論理を取り入れて保健、予防、健康作りの普及に役立てられないか」という願いと、雪印メグミルク株式会社側の「保健、予防、健康作りに何らかの企業展開が見つけられないか」という願いが合致したわけですね。青森県庁、マルマンコンピュータサービス株式会社（本社弘前市）の積極的後押しもありました。

さらに驚いたことがあります。それは、会社が、本社の課長（森隆志さん）を弘前大学の共同研究員として派遣したこと。その気合の入りに私はいたく心を揺さぶられ、「なんとかしなければならぬ」という気持ちにさらされて大きくなりました。結局すべては気持ちと気持ちだと思えます。

産学共同という言葉は日常でよく耳にします。しかし、私はその実態に不満を感じていました。会議だけで本当に相互理解が深まるのだろうか。とくに、私の保健、予防、健康作りの分野は、医学だけでなく経済、教育、文化、気候などほぼすべての社会環境要因の中に混在しながら存在しています。複雑だということ。その考え方はある種の哲学的でもあります。この真ん中の本質を少しでも「産」の側に理解していくことが、保健、予防、健康作り推進のための唯一の道だと思えます。保健、予防、健康作りの真ん中の仕事として役に立ち、かつ企業活動にも利する、そんな夢のようなことができないのか、いやできる、という結論に達しました。これは大げさはでなく、人類全体の幸福にもつながるこ

研究室研修 優秀発表賞について

脳神経病理学講座 教授 若林孝一

これまで三年次後期に実施していた研究室研修ですが、新カリキュラムに伴い今年度から四年次前期に実施することになりました。今年度は百十四名（学士編入学を含む）が、受け入れ希望のあった三十六講座のいずれかにおいて四月から七月まで研修を行いました。発表会は七月二十五日から二十七日の午後に基礎大講堂で行ない、同時に優秀発表賞の審査も行いました。今回は学生一人あたりの持ち時間を七分（発表五分、質疑応答二分）ととです。

主なスタッフは社会医学講座のスタッフが担います。が、専任の助教として澤田利匡先生が就かれました。雪印メグミルクの森さんと協力して、世界に類例のない本講座で結果を出したいと意気込んでいます。

講座名：ソーシャルヘルスマネジメント学講座

期 限：平成二十四年十一月一日から二年間

寄附元：雪印メグミルク株式会社

スタツフ

教授 中路重之
（兼任、社会医学講座）

准教授 梅田 孝
（兼任、社会医学講座）

講師 高橋 一平
（兼任、社会医学講座）

助教 澤田利匡（専任）
共同研究員 森 隆志



研究室研修優秀発表賞及びPBLベストシナリオ賞（記事8面）授賞者

原稿を読むだけの学生から、自分の言葉で堂々と発表する学生まで幅が広がりました。

審査の結果、今回は以下の三演題が優秀発表賞に選ばれました（発表順）。小田敦子「A dangerous bridge? 心筋架橋（myocardial bridge）」の頻度と解剖学的検証（生体構造医科学講座）、白鳥俊博「赤血球がケモカインの運搬に果たす役割に関する基礎的検討」（臨床検査医学講座）、坂本雄飛「大動脈弁狭窄症患者の大動脈弁から得た間質細胞を用いたワルファリン誘発性石灰化モデルの構築」（病態薬理学講座）。さらに、以下の六名は優秀発表賞に準ずる成績でした。阿部都萌（ゲノム生化学講座）、竹平健（社会医学講座）、高橋佑果（脳神経病理学講座）、三浦尚武（循環呼吸腎臓内科学講座）、日當悟史（皮膚科学講座）、斎藤翔太（産科婦人科学講座）（順番は発表順）。なお、授賞式が十一月五日に医学部長室で行われ、中路医学部長から三名の学生に優秀発表賞が贈呈されました。

四ヶ月という短い期間ですが学生時代に研究というものに触れることができたことは、将来の医学研究へのモチベーションという点でも意義深いものと思われま

最後に、学生を受け入れ指導していただいた担当教員ならびに今回審査を担当して下さった教員の方々に心より感謝申し上げます。

長崎 科 研 究 部 医 学 医 研 究 科 寄 附 講 座

寄附講座・寄附について

医学研究科長 中路重之



正直に言わせてもらえば、医学研究科長として、何よりも悲しいのが、研究科の教員ポストの少なさです。

まず、基礎講座。以前にあった同分野二講座の原則を外して、統合されたこともあり、本当に少なくなり、統合されて動きやすくなったという利点がないではないのですが、当然のごとく教員数は減らされているので、パワーは格段に落ちました。加えて、医学部医学科の入学定員増です。教員一人当たりのデューティーは確実に増えました。基礎講座のパワーが削がれれば、研究のパワーが削がれ、医学部全体の研究力が削がれることになることは自明です。

次に、臨床講座。現実には十年前、二十年前に比較して教員定数が減ったわけではありません。いや医員や大学院生を加えた臨床の医師数はわずかに増加しています。少し前まで言われた「医師は増加している、したがって医師不足という

には当たらない」の根拠です。確かに医師数は増加していますが、現実の仕事量はそれ以上の勢いで増加しています。たとえば、私が医学部を卒業した昭和五十四年には、超音波もCTもMRIもありませんでした。検査の数は非常に少なく、会議数も少なく、患者や家族への説明や、ヒヤリハットの会議も少なかったのです。昼から南塘グラウンドで医局野球の練習をしている楽しそうな風景も見られませんでした。今はまったく見られません。

しかし、愚痴だけを並べてみても、なんの解決にもなりません。このような状況の中にあっても、何とか工夫をして前に進む必要があります。そこで、我々が躍起となっているのが外部資金の獲得です。外部資金の獲得は、研究費等として使用できるという利点に加えて、非常勤スタッフの雇用の切り札にもなります。

外部資金の代表的なものは、文部科学省や厚生労働省などから獲得する科学研究費補助金ですが、その他自治体や企業からいただく委託金の類もあります。その一連の動きの中で寄附講座なるものが登場しました。寄附講座とは外部組織からの寄附金で新しい講座を設置することです。そのほとんどの経費は教員やスタッフの雇用のための人件費に充てられますが、大学にとり大変有難いもの

です。また逆に企業にとっても、自らの方向性に沿った活動が大学を通じてできるという願ってもない環境を与えられることになりました。現在以下のような七つの寄附講座が医学研究科にあります。それぞれの講座は、それぞれの目的を持ち、それに沿った活動を行い、大学の研究教育活動に貢献しています。

- ① 不整脈先進治療学講座
- ② 先進移植再生医学講座 (財団法人鷹揚郷からの寄附)
- ③ 地域医療学講座 (つがる西北五広域連合からの寄附)
- ④ 心臓血管病先進治療学講座
- ⑤ 糖鎖化学講座 (サンスター株式会社からの寄附)
- ⑥ 地域健康増進学講座 (弘前市からの寄附)
- ⑦ ソーシャルヘルスマネジメント学講座 (雪印メグミルク株式会社からの寄附)

この他の外部資金と云えば、いわゆる奨学寄附金があります。使い勝手のいいまことに有難い外部資金です。繰り返しですが非常勤スタッフの雇用にも有効です。他の外部資金は年度をまたいで使えませんが、奨学寄附金はそれが可能です。私の社会医学講座もこの寄附金を近い先輩方からいただいています。すこし大きさに聞こえるかもしれ

ませんが「涙が出るほど有難い」寄附金です。卒業生の皆さんにお願いしたいのは実はこの寄附金です。この寄附金は、個人または団体から大学に寄附することになります。したがって、大学がこれを管理します。ただし、「寄附書」に「寄附の対象者(講座)等」というところがありまして、たとえばそこにA講座と書いていた場合は、A講座で使用できるのです。ただし、全体の10%を大学の管理運営費として使用し、残りの90%をA講座で使うこととなります。もちろん寄附の対象者(講座)が「医学研究科」であっても構いません。

- ① 「寄附書」に必要事項を書き込んでいただき、各講座か医学部総務グループ研究支援・会計担当宛にお送りいただきます。
 - ② 事務の者から「ご入金のお願い」として振込先などが記載されたものが本人に送付されます。その振込先に送金していただきます。
 - ③ その後、大学から「寄附金領収書」が送付されます。
- この領収書を見ていただければお分かりになると思いますが、税制上の優遇措置が受けられます。領収書には「上記の金額は、所得税法第七十八条第



二項第二号及び法人税法第三十七条第三項第二号に基づき財務大臣が指定した寄附金(昭和四十年四月三十日大蔵省告示百五十四号)に該当するものです。」との記載があります。また、注釈として、以下の記載もあります。

- ① この寄附金は、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金又は法人税法上の全額損金算入を認められる指定寄附金として財務大臣から指定されています。
- ② 上記の措置を受けるために、確定申告に際して、この領収書が必要となりますので、相同期間大切に保管して下さい。

個人、法人などで若干の相違はありますが、ほぼ100%課税控除の対象となります。寄附金の詳細については弘前大学のホームページの左側にその項目

平成24年度 弘前大学大学院医学研究科 「健康・医療講演会」 開催される

鬼島 宏 (病理生命科学講座・教授)

弘前大学大学院医学研究科の学外公開講座である「健康・医療講演会」が青森市民病院との連携の下で、平成二十四年十月二十日に青森市のリンクステーション青森にて開催されました。当日は秋晴れの好天に恵まれ、多くの方々が集まりました。

青森市民病院長 棟方博文先生のご挨拶により、講演会がスタートしました。今回の講演会のテーマは、「消化器疾患の治療」であり、内科の立場から吉村徹郎先生(青森市民病院、消化器内科部長)が、外科の立場から和嶋直紀先生(弘前大学医学部附属病院、消化器外科・甲状腺外科講師)が、消化器がんに対する最新の治療についての講演を行いました。

吉村先生は「消化器内視鏡治療について、できることとできないこと」という題目で、最近の消化器内視鏡(胃カメラ・大腸カメラ)の医療進歩は著しく、数多くの早期胃癌や早期大腸癌が、開腹手術ではなく内視鏡で治療が行われている現状を示され、一方で、一定以上進行した癌などでは、外科手術を行わざるを得ないことを具体的にかつ丁寧に説明されました。

和嶋先生は、「最近の消化器外科治療」という題目で、近年の



和嶋直紀先生



吉村徹郎先生



外科手術では、腹腔鏡や手術支援ロボットを使用するために、小さな腹部切開のみで手術が可能であり、患者さんの術後回復も極めて速やかであることが示されました。一方で、熟練した外科医による従来の外科手術の大切さや適応も分かりやすく説明されました。各講演後、会場からの数多くの熱心な質問に対して、吉村先生、和嶋先生ともにとっても丁寧にお答えをされていきました。いつしか猛暑の夏も過ぎ去り、肌寒さすら感じる仲秋の頃でしたが、会場は熱意に満ちており、健康・医療講演会は滞りなく終了しました。

新任のご挨拶

腫瘍内科学講座 教授 佐藤 温



平成二十四年七月十六日、腫瘍内科学講座教授を拝命いたしました。就任にあたり腫瘍内科の紹介も兼ねてご挨拶を申し上げます。私は、東京生まれで、中学高等学校は東京に通い、医学の道を目指して、琉球大学医学部医学科に第二期生として入学しました。沖縄での六年間の暮らしは今の私に大きな影響を与えてくれました。私にとりましての「なんくるなあいさあ（何とかなるさ）」は、他人に向けた言葉ではなく、あくまでも自分自身に向けたご褒美のおまじないのようなものです。行き詰ったときに、ぼっとこぼすと気持ちが悪くならず、すので皆様どうぞご利用下さい。また、自分が最も大切にしている言葉である「ぬちどうたから（命が宝）」を学びました。医師になつてからは、実臨床を通して、目指すべき腫瘍内科医像とは何かという命題をずっと突き付けられていたように思います。その中で自ら引き出した答えのひとつが「いのちを育む」でありました。がん末期の患者さんらと「いのちを育む」のです。その援助が医療であり、私が職業人として行うべきものだと思つて

おります。琉球大学卒業、昭和大学大学院を修了、その後は消化器内科医として臨床腫瘍内科医（medical oncologist）として昭和大学および関連病院のがん医療に従事してすでに二十四年が過ぎました。今回弘前地に赴任となり、再び歴史と文化の街に住むことになりました。この地で、私ながらの思いを通して、いのちを育んでまいりたいと思っております。腫瘍内科

は、「理想的ながん医療の実践を通して形成される人間性豊かな医療社会」を目指します。その理念は「理想的ながん医療社会の構築への貢献」であり、そのための手段として、良質ながん診療の展開、がん医療に携わる医療人の育成、がん研究の推進に邁進いたします。横断的に診療を実践していくため、各診療科と連携のもと、協動的に集学的治療を実践管理しなければ

なりません。さらに包括的ながん医療の実践のためには、ほぼ全ての医療職が積極的にかつそれぞれが専門的に関与してもらう必要があります。その先に答えがあるものと確信しております。これまでの医療人としての人生は本当に多くの方々に助けられ、そして育てて頂きました。感謝ばかりです。これから先、医療現場で「理想的ながん医療社会の構築」をこの土地で地域社会と共に創造し、そしてこの地より発信してまいります。何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

医学医療情報学講座教授就任に際して

昭和六十年（一九八五年）弘前大卒 佐々木 賀 広



十月十六日付けで医学医療情報学講座教授に着任いたしました。「医学部ウオーカー」にご挨拶させていただけることに、心より感謝申し上げます。私は大学卒業と同時に、鈴木寿夫先生（当時の生理学第二講座）の下で、神経生理学の基礎を教わりました。当時は、まだ Windows OS など無く、実験装置の制御プログラムや信号処理プログラムは紙テープに打ち出して保存してました。8 インチのフロッピーが登場したとき

は、便利になったものだと感激しました。便利になったのはいいのですが、作成したプログラムの不具合で OS がよく壊れました。それを徹夜で復旧させ、翌朝何事もなかったかのように生活が続いたように思っています。今から思えば、その時コンピュータを学んだのだと思います。鈴木先生は、「実験結果は、方法に依存するところが大きい」とおっしゃいました。そのことが身に染みて、新しい測定方法・分析手法に指向した仕事を続けてきたように思います。

二年前の基礎研究の後、国立弘前病院での臨床研修を経て、第一内科（現在の消化器血液内科）に入局を許され、棟方昭博先生に

平成25年度 AO 日程入試（地域拡大）を終えて

医学科入試専門委員長 鬼島 宏
（病理生命科学講座 教授）

記録的な長さとなった猛暑の名残を感じる十月六日・七日に平成二十五年度 AO 入試第一次選抜試験が行われました。その一カ月後、すでに秋冷が身にしみる十一月四日に同第二次選抜試験が行われました。今回の AO 入試に関しましてもお忙しい中、試験監督や面接委員、出題・採点委員をしていただいた先生方および学務担当をはじめとした事務職員の方々に改めてお礼を申し上げます。

推薦入試に代わり平成二十一年度からスタートした AO 入試も今回で五回目となり、医学部内外ですっかり定着した感があります。今年度は地域拡大という大きな変更点での実施と

なりました。AO 入試の目的は、その募集要項に「将来医師として活躍するに相応しい人材を広く求め、卒業後は青森県を中心とした地域医療に貢献するため、郷土を愛する医師の育成を行う」と謳われています。このため、従前の主な出願資格・要件は、以下の①②③の要件を備え、合格者は入学することを確約できる者でした。①青森県・岩手県北部・秋田県北部・北海道南部の高等学校等を卒業（現役・一浪）、②人物、学力ともに優れ、健康で、高等学校における調査書の全体の評定平均値が四・三以上の者、③卒業後は、本学及びその関連施設で勤務することを確約できる者。

今回の受験可能な対象地域拡大となったのは、実施に当たり相当の負担がある AO 入試ですが、人物・学力ともに担保された学生が入学してきているとの実績を踏まえ、より広い地域から優秀な学生を募ろうという目的からです。具体的には、東北・北海道地方（一六道六県全域）が対象地域となりました。優れた志願者の増加が見込まれる一方で、「卒業後は本学及びその関連施設に勤務」との要件があるため大幅な増加は無からうとの予想を立てて実施に臨み、志願者倍率は、過去四年間の平均が二・五倍弱であったのが、今回は初めて三倍を超えました。選抜方法は従来通りで、「模擬講義に関する筆記試験」および「個人面接」の第一次選抜で八十名が合格となり、「ケーススタディの自学自習」および「ワークショップ」の第二次選抜へと進

内視鏡診断学を教わりました。ある日、先生に画像解析装置（巨大なハードウェア）を紹介されました。以来、画像の特徴抽出と分類が主な研究テーマとなり、平成六年にはアメリカの学会に演題が採択され、初めて渡米しました。驚いたことに、ポスター会場にジョギング姿の羽田隆吉先生がいました。羽田先生も鈴木門下ですが、話したのはその時が初めてで、「ポスターの造りは日本人らしさに欠け、英語は欧米人らしさに欠ける」とご指摘いただきました。発表資料の作成には未だに苦労する日々を過ごしております。

平成十七年、その羽田先生が主宰する医療情報部の准教授に招いて頂きました。大がかりなシステムの

これまで、忍耐強く御指導下さった多くの先生方に感謝申し上げますとともに、今後もお一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

H25年度 AO 入試地域別志願者数

	合計	男	女
青森県	87	48	39
北海道	8	2	6
岩手県	7	4	3
宮城県	5	3	2
秋田県	8	5	3
山形県	5	2	3
福島県	1	1	0
合計	121	65	56

志願者（既卒8名）：今年度拡大した地域からは計15名が出願

医学科志願者倍率（カッコ内：受験者倍率）

年度	推薦入試	AO 入試	前期日程	計
19	3.03 (3.03)	—	5.44 (4.56)	4.54 (3.99)
20	3.45 (3.45)	—	8.34 (7.18)	6.17 (5.52)
21	—	2.25 (2.25)	8.53 (7.22)	6.02 (5.22)
22	—	2.55 (2.55)	8.31 (7.08)	6.11 (5.32)
23	—	2.20 (2.20)	12.31 (11.21)	8.46 (7.78)
24	—	2.70 (2.70)	13.20 (11.53)	9.20 (8.17)
25	—	3.03 (3.03)	—	—

定員： AO 入試 40 名（うち県内枠 25 名）
前期日程 50 名（～H20）、60 名（H21）、65 名（H22～）

国際化教育奨励賞を受賞して

附属病院麻酔科 助教 工藤 隆 司

今回国際化教育奨励賞を頂きました。臨床と教育の面からスコットランドにあるグラスゴー大学医学部を視察してきました。まずグラスゴー大学について簡単に説明します。グラスゴー大学は、一四五一年にスコットランド王ジェームズ二世により創立された歴史の古い大学です。有名な卒業生には、哲学者のアダム・スミス、蒸気機関の発明とWの単位で知られるジェームズ・ワット、医学の分野では外科医のウィリアム・ハンターがいます。最近では意識レベルの評価法として世界に広まっている Glasgow coma scale の発祥地としても有名です。期待と不安を抱きながら、輝かしい歴史をたくさん持つグラスゴー大学に単身乗り込んでみました。

臨床については Royal Infirmary 内にある ICU を見せてもらい、患者の治療に関するディスカッション、その後、研修医への教育に関するディスカッションに参加しました。弘前大学と同じ closed ICU であり、患者のディスカッションは毎朝あり、週一回、より詳細なディスカッションが行われます。週一のディスカッションの後には、必ず研修医への教育に関するディスカッションも行われます。今回の研修医教育は、「today's goal」と、研修医へ配布するアンケート

用紙の項目についてでした。ICUでは患者ごとの today's goal という紙が研修医に毎朝配布され、研修医はその日一日の担当患者の治療目標を詳細に記載し、夕方に指導医と共に患者を評価し、today's goal を到達できたかどうか、できなかった場合は何が必要であったかをとことん議論します。today's goal は患者の goal でありながら、研修医の goal でもあります。研修医は trainee と呼ばれ、その名の通り、訓練する者というイメージがとて強いです。

次に医学部についてですが、五学年あり、卒業後に一年間クリニカルクラークシップがあります。つまり、クリニカルクラークシップはもう学生の域を超えている立場として考えられています。僕が訪れた時にちょうど OSCE が行われていました。一番面白かったのが、患者問診の項目です。小さな部屋にビデオカメラが設置されており、学生と模擬患者だけの二人にされます。隣の大部屋ではその様子を全学生が見ることができ、また録画されているので、終わった後自分で見ることが出来ます。また、開業医が大変重要な役割を持っており、一学年三百人が十人ぐらいずつにグループ分けされた後、開業医の医師により受け持たれ、学生は主に開業医の医師から学びます。大

科一名、保健学研究科(博士前期課程)一名、理工学研究科(博士前期課程)三名、農学生命科学研究科二名(博士学位記授与者六名(医学研究科)でした。佐藤 敬学長より、お祝いのお言葉の後、卒業生、修了者に学位記が授与されました。

引き続き、平成二十四年度弘前大学大学院医学研究科(秋季)学位記授与式が行われました。医学研究科では秋季学位記授与者が増加傾向にあります。これは以下の二つの理由が考えられます。一つの要因は、四年の修業年限内に卒業できる学生が減少したことです。大学院が部局化された平成十九年度から、学位論文として提出される論文はすべて査読制のある雑誌に採択されていることが義務づけられました。このため、四年以内に卒業できた学生は、平成十六・十七年度では百五人中九十五人(九〇・五%)でしたが、平成十九・二十三年度には二百四名中百三十六名(六六・七%)に減少しました。

もう一つの要因は、修業年限短縮制度を用いて卒業する学生が増えていくことです。医学研究科では、優れた研究業績を上げた学生については、三年あるいは三年半で修了することが出来る修了年限短縮制度を設けていますが、半年早く卒業する学生が秋季学位記授与式で学位を授与されることになり

秋季学位記授与式

学事委員長 伊藤悦朗 (小児科学講座 教授)

平成二十四年度弘前大学及び弘前大学大学院秋季学位記授与式が、平成二十四年九月二十八日(金)午前十時三十分から、弘前大学事務局三階の大会議室において行われ、三十四名に学位記が授与されました。秋季学位記授与者の内訳は、秋季学位記授与者二十一名(人文学部十名、教育学部五名、医学部保健学科二名、理工学部二名、農学生命科学部二名)、修士学位記授与者七名(教育学研究

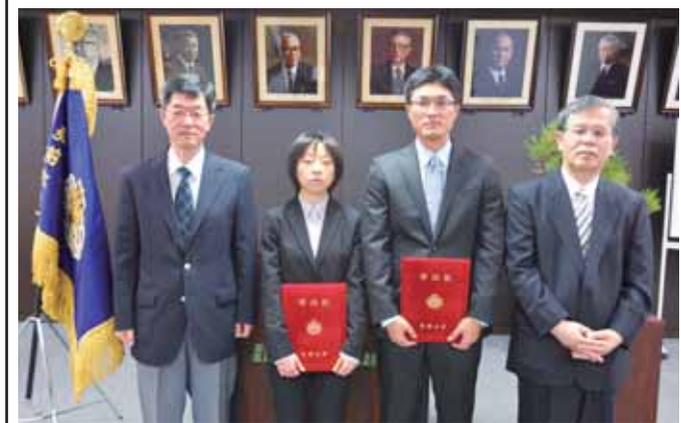
科一名、保健学研究科(博士前期課程)一名、理工学研究科(博士前期課程)三名、農学生命科学研究科二名(博士学位記授与者六名(医学研究科)でした。佐藤 敬学長より、お祝いのお言葉の後、卒業生、修了者に学位記が授与されました。

引き続き、平成二十四年度弘前大学大学院医学研究科(秋季)学位記授与式が行われました。医学研究科では秋季学位記授与者が増加傾向にあります。これは以下の二つの理由が考えられます。一つの要因は、四年の修業年限内に卒業できる学生が減少したことです。大学院が部局化された平成十九年度から、学位論文として提出される論文はすべて査読制のある雑誌に採択されていることが義務づけられました。このため、四年以内に卒業できた学生は、平成十六・十七年度では百五人中九十五人(九〇・五%)でしたが、平成十九・二十三年度には二百四名中百三十六名(六六・七%)に減少しました。

もう一つの要因は、修業年限短縮制度を用いて卒業する学生が増えていくことです。医学研究科では、優れた研究業績を上げた学生については、三年あるいは三年半で修了することが出来る修了年限短縮制度を設けていますが、半年早く卒業する学生が秋季学位記授与式で学位を授与されることになり

今年も十月二十六日(金)から十月二十八日(日)までの三日間、「医学展」を開催させて頂きました。今年も医学研究科の秋季卒業生は、甲が三名、修業年限短縮が三名の計六名でした。今年度の秋季大学院授与式には二名が出席し、中路重之研究科長から学位記が授与されました。

今年も「知の創造」との共同企画を行い、胸部心臓血管外科学講座教授の福田先生には「天皇陛下も受けた手術 冠動脈バイパス術」、神経精神医学講座准教授の古郡先生には「みなさん、眠れてますか?」という演題で講演させて頂きました。両先生のお話とも非常に身近な話題が盛り込まれており、熱心に聞き入る来場者の方々が非常に印象的でした。講演会終了後にも先生の元へ



今年も十月二十六日(金)から十月二十八日(日)までの三日間、「医学展」を開催させて頂きました。今年も医学研究科の秋季卒業生は、甲が三名、修業年限短縮が三名の計六名でした。今年度の秋季大学院授与式には二名が出席し、中路重之研究科長から学位記が授与されました。



今年も「知の創造」との共同企画を行い、胸部心臓血管外科学講座教授の福田先生には「天皇陛下も受けた手術 冠動脈バイパス術」、神経精神医学講座准教授の古郡先生には「みなさん、眠れてますか?」という演題で講演させて頂きました。両先生のお話とも非常に身近な話題が盛り込まれており、熱心に聞き入る来場者の方々が非常に印象的でした。講演会終了後にも先生の元へ

今年も「知の創造」との共同企画を行い、胸部心臓血管外科学講座教授の福田先生には「天皇陛下も受けた手術 冠動脈バイパス術」、神経精神医学講座准教授の古郡先生には「みなさん、眠れてますか?」という演題で講演させて頂きました。両先生のお話とも非常に身近な話題が盛り込まれており、熱心に聞き入る来場者の方々が非常に印象的でした。講演会終了後にも先生の元へ

今年も「知の創造」との共同企画を行い、胸部心臓血管外科学講座教授の福田先生には「天皇陛下も受けた手術 冠動脈バイパス術」、神経精神医学講座准教授の古郡先生には「みなさん、眠れてますか?」という演題で講演させて頂きました。両先生のお話とも非常に身近な話題が盛り込まれており、熱心に聞き入る来場者の方々が非常に印象的でした。講演会終了後にも先生の元へ

今年も「知の創造」との共同企画を行い、胸部心臓血管外科学講座教授の福田先生には「天皇陛下も受けた手術 冠動脈バイパス術」、神経精神医学講座准教授の古郡先生には「みなさん、眠れてますか?」という演題で講演させて頂きました。両先生のお話とも非常に身近な話題が盛り込まれており、熱心に聞き入る来場者の方々が非常に印象的でした。講演会終了後にも先生の元へ

今年も「知の創造」との共同企画を行い、胸部心臓血管外科学講座教授の福田先生には「天皇陛下も受けた手術 冠動脈バイパス術」、神経精神医学講座准教授の古郡先生には「みなさん、眠れてますか?」という演題で講演させて頂きました。両先生のお話とも非常に身近な話題が盛り込まれており、熱心に聞き入る来場者の方々が非常に印象的でした。講演会終了後にも先生の元へ

研究室紹介

循環呼吸腎臓内科学講座

循環呼吸腎臓内科学講座 准教授 長内 智宏

循環呼吸腎臓内科学講座は平成八年より奥村 謙先生が教授に就任され教室運営に当たられています。診療科は循環器・呼吸器・腎臓内科で、その名前の通り、循環器疾患、呼吸器疾患、腎臓病の診療に携わっています。また、二つの寄附講座があり、不整脈先進治療学講座と心臓血管病先進治療学講座です。関連病院も数多くあり、青森県並びに秋田県北・岩手の医療を支えています。

循環器内科の診療は主に心筋梗塞、狭心症、心臓弁膜症を対象とした冠動脈グループと心不全、不整脈、心筋症を対象とした不整脈グループが行っています。疾患の性格上心臓カテーテル検査・治療の数が多く、その件数は国立大学の中でも一、二を争います。またデバイス治療も頻繁に行われて ICD、CRT、CRTD の件数も国立大学一、二位に位置し、年々増加の一途をたどっています。不整脈治療では、心房細動に対するカテーテルアブレーションを、アジア地域で最も先進の 3D イメージングテクノロジーを駆使し、安全かつ確実に実施しています。

循環器グループの研究は、「臨床からヒントを得て、それを基礎的に深く掘り下げ、また臨床に還元する」を基本理念に、研究のための研究は避けるように



心掛けています。主なものだけ紹介しますと、冠攣縮性狭心症の原因分子がホスホリパーゼ C δ 1 であることとを同定しました。また、呼吸器内科の診療は、喘息、COPD、びまん性肺

疾患、肺炎、肺癌など広く扱っていますが、自然と入院患者は肺癌が多くなっています。肺癌は治療が多様化しておりますが、化学療法の場合は初回は入院、以降は外来化学療法といった形になっていきます。そのため、入院患者が増加するだけでなく、外来患者も増加しており、その対応に当たるマンパワー不足に困窮しています。主な検査は気管支鏡検査ですが、内科的胸腔鏡も行っており、徐々に症例も増えていきます。呼吸器グループの研究では、臨床検体を用いて、肺癌の病態の研究を継続しています。サイトカインから最近では遺伝子変異の検出などについての研究を行っています。COPD や気管支喘息については、喀痰、呼吸気縮液、最近では気道抵抗測定などを用いた病態の研究を行っています。腎臓グループは、津軽地域および青森県全体の腎臓病診療の中心として、現在まで多くの腎臓内科医を輩出してきました。しかし基幹病院にはまだまだ腎臓内科専門医が少ない状況であり、青森県内全体から腎臓病症例を紹介いただいています。診療面では、検尿異常から末期腎不全、原発性腎疾患から、糖尿病、膠原病などの全身性疾患に伴う二次性腎疾患と多岐にわたっています。これらに対して、ステロイド、免疫抑制薬を用いた薬物治療から、血漿交換などの血液浄化療法など、最新の高度医療を提供しています。研究面では、腎臓病の発症、進展の機序の解明や、新規の治療薬の開発などについて基礎的研究を行っています。また臨床研究で

は、平成二十三年五月から、津軽地域における糖尿病性腎症に関する観察研究を行っています。これは早期腎症の患者さんを登録して三年間経過観察し、その寛解率、進展率を検討するものであり、同時に、登録時事務局から標準治療についてのコメントを提供することにより、早期腎症の治療に関する知識の浸透を図るものです。これにより透析導入の原因疾患の第一位である糖尿病性腎症を少しでも減らすことができれば、と期待しています。以上のように、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科の診療、研究において、地域に貢献し、国内外へ沢山の情報を発信できるように日夜頑張っています。

UHSU留学体験記

医学科五年 丸山 尊

今年の夏、米国テネシー州にある The University of Tennessee Health Science Center にて臨床実習をさせていただきました。私は大学入学以前から米国での臨床研修を考えており、将来の進路として興味のある内科と ER で約一週間ずつ実習を行いました。UHSU MED と呼ばれる病院において Dr. Smart が指導医たちの下で実習を行い、五日間（初日は午前のみ）で計

留学だより テネシー大学及び三沢空軍病院への学生派遣

「私たちが彼らの（ある意味）プライマリケア医よ」とも。米国医療の負の側面を実際に見たことは私にとって良い経験になりました。また「ここで学んだことが将来役に立つことを祈っているわ」と言われたことは今でも心に残っています。次の週は内科病棟で実習を行いました。指導医を頂点として七人で一組の屋根瓦式チームが三チームあり、私は B チームで実習を行いました。B チーム全体で二十人ほどの患者を受け持ち、医学生 (M3) は五、六人患者を受け持っていました。医学生が患者を診た後レジデントや指導医にプレゼンを行い、ディスカッションするというスタイルを一日に何度も行って

コラム

医学部之ぼれ話

たばこ今昔

現在の日本の喫煙率は大体二〇%とのこと。私などが成人した時の喫煙率は男性が約八〇%です。吸わない人の方が圧倒的に少数だったようです。男なら吸わない方が変だったわけ。確かに、電車やバスでは当たり前、病院では外来で煙草を吸いながら患者さんを見ることもありました。講義室には煙草の吸殻が落ちていました。今は、愛煙家（笑う表現ですが）にとって本当にきびしい世の中になりました。医学部、病院内では全面禁煙ですので、みんな、患者さんも含め、道路まで出て、煙草を吸っています。この寒い季節には見えて



おり、効率的に実践力が鍛えられるようになっていきました。病棟業務を終えた後は ER で患者を診るのですが、ある日頭痛を訴える患者を私が診察した際に「ロッキーマウンテン山紅斑熱とウェストナイル熱も out しなきゃなあ」とダメ出しされたことも心に残っています。今回の滞在中は Pre-COVID と呼ばれる医学生たちの住む寮に宿泊しました。くだらない話もたくさんありますが「笑」、将来の夢についてや J-alert の日本特集号の話からお互いの医療制度について話をするといったことも多くあり、彼らから受けた影響は非常に大きかったです。今回得た素晴らしい経験を元にこれからも自分の目標に向かって真つすぐ進んでいきたいと思えます。澤村教授をはじめとする先生方、総務グループの木村さん、そして一緒に実習をした加納さんに心から感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございます。

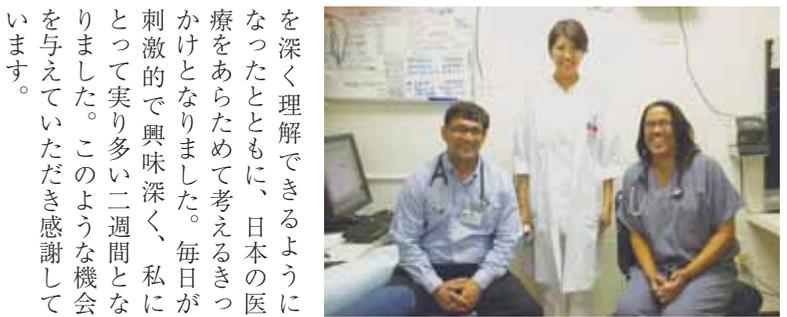
テネシー大学研修を終えて

医学科五年 加納 千花子

今回、University of Tennessee Health Science Center (UTHSC) で二週間の研修をさせて頂きました。研修は、The MED という病院で、前半を ER、後半を麻酔科で行いました。UTHSC は、いくつかの病院から構成されていて、大学病院のような専門医が集まる病院、小児病院、眼科センターや皮膚科センターなどの専門病院があります。そのなかで、The MED はいわゆる救急病院です。

ER で驚いたのは、診察が無料だということでした。そのため、保険を持っていない低所得者層の患者が多く、軽症の患者と重症の患者が混在しており、それを見極めるのが ER ドクターの仕事です。入院が必要であれば、そのまま病棟へ送られ、入院患者として治療が行われます。入院が必要なと判断されれば、簡単な治療は ER で行われ、専門的な治療は専門病院へ紹介されます。ER は、アメリカの医療制度の矛盾を顕著に表す場所です。最先端の医療や研究を誇るその裏側で、最低限の医療も受けられない患者が多く存在し、その最後の砦が ER なのです。アメリカの光はまばゆいばかりですが、その影は一層濃く、アメリカの医療制度の問題を実感しました。

麻酔科で驚いたのは、問診、気管内挿管、静脈投与、ブロックなんでもできる専門教育を受けた看護師が中心となって術中管理を行っていることでした。彼らは、研修医並みあるいはそれ以上の能力を持ち、待遇も研修医並みです。麻酔科ドクターは、彼らを監督するのが仕事です。アメリカでは、医師でも看護師でも専門性を高めて、自らの待遇を良くすることに大変な努力をしていることがわかりました。



今回の研修では、アメリカの医療を肌で感じる事ができました。「百聞は一見にしかず」という通り、実際に見たり聞いたりした体験から、アメリカの医療を深く理解できるようなったとともに、日本の医療をあらためて考えるきっかけとなりました。毎日が刺激的で興味深く、私にとって実り多い二週間となりました。このような機会を与えていただき感謝しています。

三沢空軍病院実習 Don't worry about failure!

医学科五年 清水 翔太



何度か海外に旅行したことはあったが、ホームステイは今回が初めてだった。ホテルに滞在する外国旅行と、外国の人とともに生活することとは、全く意味合いが異なっていた。英語を話さなければ自分の毎日の生活がままならないからである。

最初のうちは、辞書を片手にとにかく自分の意志を伝えることで精一杯だった。私のホストファミリーの Nguyen さんはとても親切な方で、丁寧に私の即席英語を理解し、簡単な英語で話しかけてくれた。英語を使わなくてはいけないう状況の中で、遠い記憶となっていた受験英語で覚えた単語を駆使していた。日常生活

三沢空軍病院での実習レポート

医学科五年 大山 雄大



弘前大学には三沢空軍病院での夏季研修 (Externship) があるということを知り、先輩方から聞いていた。青森に居ながらにして「海外」に行けるという機会を自分も体験したいと思い、不安もありましたが応募しました。学内での面接の後に許可をいただき、二〇一二年八月二十日(月)から八月二十九日(木)までの約二週間、実習させていただきました。

三沢空軍病院での実習を終えて

医学科五年 山川 司



八月二十二日から約一週間、私は三沢空軍病院で実習をさせて頂いただけのこととなり、実習期間中は三沢空軍病院で小児科医として働く Dr. Ellgass の家にお世話になりました。

特に興味深かったのが家庭医の診療です。私は空軍病院の家庭医 Dr. Hackett の診察を見学させて頂きましたが、全体として common diseases が多いものの、普通の感冒症状から、高血圧や内分泌疾患のフォロー、妊婦の診察や検診、腹痛、等々本当に何でも診るとい印象でした。

三沢空軍病院での実習を終えて

医学科五年 丹 藤 利 夫



米軍基地に行くのは初めてですし、ホームステイ先も勿論米軍の方なので、実習に行くに決まっていますから二週間どのように過ごすのか不安と期待でいっぱいでした。三沢に行く前日、あれほど持っていくものを入念に確認していたにもかかわらず使わずに捨てたコンタクトレンズの予備をすっかり忘れてしまい、当日つけていった一日使い捨てコンタクトだけで三沢に行っていました。そのことを三沢空軍病院の Bragdon 先生に伝えると眼科の Willis 先生に事情を説明してくれて、実習をはじめの前に眼科の診察をして頂き、二週間使い捨てコンタクトを処方してくれました。僕は奇しくも眼科に興味があって眼科と内科を中心に実習をお願いしていたので、Willis 先生には実習でも大変お世話になりました。また、内科では「Dr. 先生にいろいろと診察を見学させていただきました。」Dr. 先生にどうして内科に興味があるのか尋ねられた時、逆に先生は

「ちゃんと自分の意見を言ってくれないとわからないわ。」
三沢米軍基地に着いた初日、私がいかに「どちらでもいい。」「あなたに合わせます。」を連発していたらホストマザーの Cynthia は呆れたように言った。ここで、アメリカと日本の文化の違いというものをもっと感じた。私は相手の都合を気遣ったつもりでも、アメリカ人の相手はかえってそれが負担だったのだ。頭ではわかっていたが、二十四年私に染み付いた日本の文化はなかなか根強かった。
初めてのネイティブアメリカンとの交流。聞き取れない英語、うまくできない発音、室内でも土足、豪快にバスルームをびしょびしょにする子供たちとの生

末に白浜海岸に連れて行ってくれたり、おいしいテラス・メクス料理を御馳走に一緒にワークアウトに行ったりへロへロになったりといろいろと楽しんで過ごさせてもらいました。
三沢空軍病院での実習は日米の臨床での違いもそうですが、文化の違いも沢山あってとても勉強になりました。米軍基地の方々は仕事と遊びの切り切りがしっかりしていて、人生を本当に楽しんでいてと感じました。このような貴重な機会を与えて下さった大学と先生方に感謝します。ありがとうございました。

私の夏休み@三沢

医学科五年 鈴木 美耶子

活、そして挙句の果てに携帯の充電器が壊れて外の世界との通信が遮断され、自分から志望して行ったにも関わらず早くステイ期間が過ぎていかなかなと初日から先が思いやられていた。それでも、懸命にホストファミリーが私にアメリカの文化を堪能させようと気遣ってくれた。アメリカンサイズのハンバーガーにピザ、誕生日パーティーでのトランプゲーム、まさかのデイスコデビュー。私もできるだけ意思表示をはっきりするようになっていった。自分の意見を相手にしっかりと伝えることに、新しい自分に出会ったような気がした。
病院でも、スタッフの皆さんが私のつたない英語を理解してくれようと、あろうことか手術にも入れて

私は七月三十日〜八月十日までの十二日間、三沢空軍病院で実習を行ってきました。短い実習期間でしたが、三沢空軍病院での実習はとても楽しく充実しておりに私にとって大きな夏の思い出になりました。わずかに出たのですが、その思い出について綴らせて頂きます。
まず始めに私が三沢空軍

留学だより——三沢空軍病院

医学科五年 清水 寿和



病院での実習を申し込んだ理由は苦手な英語を少しでも克服したいという気持ちとアメリカの医療を体験してみたいという気持ちからでした。英語の勉強は好きで普段から勉強していましたが、ネイティブの方々と話すの機会が少なく、今回の実習は英語の良いトレーニングになると思い申し込みました。
三沢空軍病院へは同級生の清水翔太君、丹藤利夫君と一緒に向かいました。三沢駅に着くと Dr. Bragdon の気さくで真摯な迎えに三人の緊張も和らぎました。三沢空軍病院では規模こそ大きくないですが、Dr. Bragdon の手筈により毎日新しいことを見学でき、さらに各ドクターやスタッフの熱心な指導のもとで多くの事を学ぶことができました。
ストファミリーと離れる時いいようのない寂しさを感じた。
「あなたはもう家族なんだから、いつでも帰ってきていいのよ。」三沢にもうひとつ実家ができたことが、この夏一番の出来事である。



腫瘍が取れて、まだ傷が開いているのに「イエー！」と喜ぶ患者さんを見て私もちゃっかり一緒に喜んだ。あんなに喜怒哀楽を病院で出したのは初めてである。
初日の不安が嘘のように、三沢での一週間は怒涛のようであっという間に過ぎて行った。濃厚な日々のお陰で、ホ

た。また、日本とアメリカの医療の違いもたくさん目にする事ができました。
病院での実習が終わると、三人は各スポンサーのもとでお世話になりました。私のスポンサーはナイスの Ms. Valerie で、とても活発的な女性でした。毎日、自分の実習と彼女の仕事が終わるとバーベキュー、花火、ジムでのエクササイズや映画を見に行ったりして余暇を楽しく過ごしました。また、彼女はボーイフレンドや友人を多く紹介してくれ、毎日、多くの方々と楽しく英会話をする事ができました。
十二日間という短い期間では、正直、英会話のスキルが目に見えて上達するとはありませんでした。しかしながら、英語で生活することに慣れたことや片言でも自分の考えを伝えることができたという事は、自分の殻を一つ破ることで、わずかに成長できたと思います。このような機会があればぜひチャレンジしていきたいと思っています。
最後に、このたびは三沢空軍病院実習という貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。



留学だより

医学科五年 横野 良典



平成二十四年七月十九日から二週間、私は三沢米軍基地でホームステイと病院実習をしてきました。その二週間の経験から言えることは、英語ができるできないに関わらず、この実習に参加することで様々なことを学ぶことができ、その後の人生に大きく影響するほど貴重な経験をできるということだと思います。
初めに、どのようにして夏季研修生として研修をするか説明したいと思います。夏季研修生の募集が掲示されるのが五月中旬、そして選考面接があるのが六月上旬です。面接では、面接官の先生方と英語で話をします。面接の目的は、生徒の英語力を把握することだと思えます。募集人数より多く生徒が集まった場合は、面接により選別しますが、私の学年では、三沢には募集人数より多い希望者全員行くことができました。研修の日程は、指定されたホストファミリーの方とメールで決めます。日程が決定したら、その日までに道具の準備と心の準備もして、あとには実習に参加するだけです。
私は、この研修のことを大学二年生の時に知り、ずっとこの実習に参加したいと考えていました。しかし、自分自身の英語力やコミュニケーション能力に自信がなかったため、いざ研修参加の希望を出す時、本当に悩みました。悩んで悩んだ結果、恥をかいてもいいから頑張ろうということになりました。
三沢空軍病院では、医療従事者は全員軍服を着ていました。廊下ですれ違う時には笑顔で挨拶をしていて、病院全体に明るく活発な雰囲気がありました。実習では、一般内科、外科、眼科、臨床検査、産婦人科を回りまわりました。最終日には病院全体の訓練として、飛行機事故を想定して様々な患者のトリアージから治療までの工程を一日かけて練習しました。
この実習を通して、日本以外の医療のやり方に触れることができ、診察の仕方や考え方が異なる部分が発見することができました。常に新しいことを学んでいく姿勢や、人と議論を重ねて方針を決定していく姿がとても印象的でした。他にもたくさん学ぶことができました。
少しでも参加しようと思う気持ちがある方は、その気持ちに正直に参加されることをお勧めします。
この経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

第55回東医体において ラグビー部優勝、 弘前大学は男女総合で第3位の大活躍！

分子生体防御学講座 教授 伊 東 健

今年の七月から八月にかけて東邦大学医学部、山梨大学医学部、東京医科大学、慶応義塾大学医学部(東邦大学が主管代表校)の主管で行なわれた第五十五回東日本医科学学生総合体育大会夏季大会において、弘前大学学生は日頃の練習成果を存分に発揮し、男女総合で三位と健闘した。特にラグビー部の優勝、ソフトテニス部男子およびバドミントン部男子の準優勝などが光った。また、水泳部女子の高林さんは個人で二つの大会新記録を生み出した。運営にあたった主管大学を始めた学生の尽力に敬意を表したい。連絡のあったものについてのみ、結果を以下に掲げる。

- 【ソフトテニス部】男子団体／準優勝、女子団体／第四位
- 【準硬式野球部】ベスト4
- 【バレーボール部】男子／ベスト4、ベストセッター賞・蘭藤佑哉
- 【バスケットボール部】男子／ベスト8
- 【空手道部】男子個人組手／準優勝・内田康幸
- 【サッカー部】ベスト4
- 【陸上部】「男子」一〇〇〇〇／第三位・賀佐一大、二〇〇〇〇／第二位・賀佐一大、一〇〇〇〇／第三位・賀佐一大、一〇〇〇〇／第一位・伊藤真子、走高跳／第四位・伊藤真子、砲丸投げ／第六位・伊藤真子、槍投げ／第三位・奥口聡美
- 【水泳部】「男子」二〇〇〇〇背泳ぎ／第六位・望月賢紀、「女子」一〇〇〇〇バタフライ／優勝(大会新)・高林安奈、二〇〇〇〇個人メドレー／優勝(大会新)・高林杏奈、二〇〇〇〇自由形／第五位・工藤沙映、四〇〇〇〇自由形／第五位・工藤沙映
- 大会本部から届いた総合成績(男女総合) 順位「得点」学校名
- 1 「五十七・五」慶応義塾大学
- 2 「五十一」筑波大学
- 3 「三十八」弘前大学
- 4 「三十五」自治医科大学
- 5 「三十三」新潟大学
- 6 「三十二・五」山形大学
- 〈女子〉
- 1 「三十二・五」東京女子医科大学
- 2 「二十三」筑波大学
- 3 「十八・五」慶応義塾大学
- 4 「十八」山形大学
- 5 「十七」秋田大学
- 6 「十四・五」福島県立医科大学
- 「八」弘前大学

PBLベストシナリオ賞

脳神経生理学講座 教授 上野 伸哉

十一月五日にPBLベストシナリオ賞贈呈式を行いました。

受賞者は土屋貴大君、片山恵里さん、市澤愛郁さんの三名です。選考は、十人の選考委員が上位四名のシナリオを選出し、点数化しておこないました。このPBLシナリオおよびPBLシナリオ解説作成は、二年次前期PBL授業のなかで二年生全員が取り組んでいるものです。今年度の学年全体の評価としては、特にシナリオ解説作成に関して少し掘り下げに乏しいという意見が選考委員からは出て行くと見えています。

人事異動

●大学院医学研究科

- 辞職(24・8・31)
 - 分子生体防御学講座 助教 原田 伸彦(東北大学)
 - 採用(24・9・1)
 - 分子病態病理学講座 助手 坪井 堅太郎
 - 産科婦人科学講座 助教 谷口 綾亮(青森市民病院)
- 採用(24・10・1)
 - 眼科学講座 助教 尾崎 拓(眼科)
 - 産科婦人科学講座 助手 飯野 香理
 - 配置換(24・10・1)
 - 耳鼻咽喉科学講座 助教 井上 卓
 - 耳鼻咽喉科 助教 昇任(24・10・16)
 - 医学医療情報学講座 教授 佐々木 賀広
 - 医療情報部 准教授 谷口 綾亮

弘前大学医学部

臨床教授・臨床准教授 新規称号付与者

臨床教授

神村 典孝(独立行政法人国立病院機構弘前病院 泌尿器科部長)
平成二十四年十月一日〜平成二十七年九月三十日

- 採用(24・11・1)
 - ソニールヘルスマネジメント学講座 助教 澤田 利匡(医員)
 - 放射線科学講座 助手 廣瀬 勝己(医員)
 - 昇任(24・11・1)
 - 泌尿器科学講座 准教授 古家 琢也
 - 泌尿器科 講師 飯野 香理
 - 産科婦人科学講座 助教 中井 希紫子
 - 麻酔科学講座 助教 梶方 聡
 - 脳神経外科学講座 助教 梶方 聡
 - 黒石市国民健康保険黒石病院
- 附属病院
 - 昇任(24・9・1)
 - 保健学研究科 教授 樋口 毅
 - 周産母子センター 准教授
 - 辞職(24・9・30)
 - 集中治療部 助手 西村 雅之(西北中央病院)
 - 消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科 助教 神 寛之
 - 採用(24・10・1)
 - 消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科 助教 脇屋 太一
 - (国立療養所松丘保養園)
 - 泌尿器科 助教 山本 勇人(市立函館病院)
 - 泌尿器科 助手 杉山 尚樹(むつ総合病院)
 - 集中治療部 助手 高田 典和
 - 昇任(24・10・1)
 - 耳鼻咽喉科 講師 佐々木 亮
 - (耳鼻咽喉科学講座 助教)
 - 辞職(24・10・31)
 - 眼科 助教 横井 由美子
 - 採用(24・11・1)
 - 眼科 助手 盛 泰子

弘前大学後援会のご案内

会長 石戸谷 忻一

弘前大学後援会では、学生の学業、課外活動への助成、学生の進路指導に必要な助成等学生生活の多岐にわたる分野の助成を行っております。つきましては、何卒本会の趣旨に御賛同頂きまして、各位の格別の御高配、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、入会方法等の詳細については、弘前大学総務部広報・国際課(Tel:0172-39-3012 E-mail:jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp) までご連絡ください。

援会ホームページ(http://www.hirosaki-u.ac.jp/kouen/index.html)をご覧ください。

社団法人 青森医学振興会

沿革 平成11年3月1日 弘前大学医学部医学科後援会鶴桜医学振興会発足(任意団体)
平成13年4月2日 社団法人青森医学振興会設立許可(青森県)

振興会では、21世紀の青森県の医学・医療を積極的に支援しようとする事業を行っております。

- 医学教育の助成 教育活動を活性化するための支援
- 医学研究の助成 研究活動を高度化するための支援
- 地域医療振興事業の助成 地域医療に貢献するための支援
- 医学国際交流の助成 国際学術交流の支援

随時、会員の募集とご寄附の受付をしております。
会費と寄附金の納入方法は下記の通りです。

口座名	社団法人 青森医学振興会	
口座	青森銀行 弘前支店	普通 1087485 ※ 各銀行の本支店及び
	みちのく銀行 大学病院前支店	普通 0198579 ゆうちょ銀行から振込む場合は、手数料無料です。
	ゆうちょ銀行振替(旧郵便振替)	02200-4-57580
会費	会員種別	年会費
	医学部教員	1万円
	医学部卒業生	2万円
	賛同する個人賛同する団体	1万円 / 10万円

お振り込みいただく場合は、お手数ですが、振興会事務局までご連絡(電話、メール)願います。

お問い合わせ TEL:0172(33)5111内線6519 E-mail:jm6519@cc.hirosaki-u.ac.jp

お知らせ

医学部ウォーカーへ教授就任のご挨拶を掲載いただける方は、弘前大学医学部総務グループ(総務担当)までご連絡願います(0172-39-5194)。

ただし、紙面の都合により掲載ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

編集後記

今年も暮れを迎えてしまいました。あれだけ暑かった夏、リングがやけてしまつた心配したのはつい先日だったのに。月並みな言葉ですが、本当に月日が経つのは早いのです。忘年会をやつて新年を迎えたいと思つたのに、気が付くと、また忘年会をやつています。秋から暮れにかけては文部科学省として厚生労働省関連の科学研究費への申請であつたふたしまた。熱意ある若い方々に、良好な研究環境を提供するには研究費があるに越したことはありません。研究費獲得に苦労する昨今ですが、弱音を吐いてはいられません。本学には弘前大学後援会や青森医学振興会があり、様々な形で御支援を頂いています。本号にも入会のご紹介を掲載しておりますので、是非、ご入会をお願い致します。今回は新任教授として腫瘍内科学講座の佐藤温教授、そして医学医療情報学講座の佐々木賀広教授のご紹介を掲載致しました。もうすぐで二人とも本学でご活躍されています。両講座が益々発展することが期待されます。あつという間に過ぎたとは言え、今年もいろいろありました。皆様、どうぞ、よき新年をお迎えください。(萱場)

